

# 仲間が、親が「やったー」

## 光星初戦突破 スタンドに歓声



一塁側アルプススタンドで応援する八学光星の生徒たち



9回表の開戦(島根)の攻撃をゼロに抑え勝利を決めた瞬間、歓声に沸く八学光星の生徒たち。21日午後3時半ごろ、八戸市の八戸学院光星高校

「やったー」「次も頑張る」大会の1回戦・八学光星1日、甲子園球場の一塁側アルプススタンドで行われた第88回選抜高校野球開戦(島根)が行われた21日、光星と八戸市を20日に発売し

の300人超の大応援団が陣取った。ナイフへの必死の応援が実り、チームは見事に初戦突破。スタンドには歓声がこぼれ、歓喜の渦に包まれた。【本記1画】応援団は、ベンチ入りでなかった野球部員約70人、幸一さん(45)は息子の活躍に「チームに勢いを付けられて良かった」と笑顔を見せた。チームが関西入りしてから、足しげく練習試合の球場に通ったという「最近調子が良かったし(背番号16だが)せつかく出場できたのだから、打つてくれと願っていた。もともと青森県に行ってたくましくなった」と幸一さんは目を細めた。

硬式野球部員で、開会式ではフラカードを持って入場行進もした生徒会長の山田鈴星さん(3年)は選手への応援歌に合わせて、ユニークな踊りを披露。スタンドを沸かした。「応援を盛り上げることができたし、何よりチームの勝利がうれしい」と山田さんは白い歯を見せた。同校吹奏楽部員でアルトサクソスを担当した小山祐紀さん(3年)は「2時は1点差に迫られたけど、追加点を奪ってくれて、感激した。このままずっと勝ち進んでほしい」とエールを送った。(兼平昌寛)

### 「勢いに乗って優勝だ！」

八戸市の八戸学院光星高校では、ソフトテニス部やバスケットボール部などの生徒や教職員ら約100人が、オープンベースの大型スクリーンで試合を観戦。ナイフが勝利を決めた瞬間は歓声に包まれ「勢いに乗って優勝だ」とさらなる活躍を願った。生徒たちは試合前の学校紹介の映像から盛り上がり、「頑張れ光星」とエール。一回裏に幸一先良く先制

するとメガホンをたいて三回に1点差に追い上げられると、さらに応援に力が入り、テレビから流れる応援歌に合わせて「かっ飛ばせ！光星」など声を張り上げた。待望の追加点を奪った五、六回の場面で、盛り上がりは最高潮に達した。男子バスケットボール部の佐々木大喜さん(1年)は「守備も攻撃も素晴らしい、応援に力が入った。次の試合でも打って勢いに乗って優勝してほしい」と期待を込めて語った。同校入学生を前に、入部が決まっている女子ソフトテニス部の練習に来ていた道弘中の権代純さん(15)は「二人一人つないで得点していて団結力が光った。ソフトテニス部も負けずに全国で活躍できるよう頑張りたい」と話した。同日は中心街の八戸ポータルミュージアムは「パブリックビューイングが行われ、市民ら約20人が声援を送った。(小橋徹、館花光秀)